

Monthly Letter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



文部科学省
地(知)の拠点

大学連携センター(Fスクエア)で履修している学生へアンケートを実施

6月13日から21日にかけて、大学連携センター(以下、Fスクエア)での共同開講科目を履修している学生へアンケートを実施しました(対象科目:14科目)。科目履修者は276名、このうちアンケート回収数は182名で、回収率は約66%という結果になりました。

履修者は1、2年生が多く、127名と全体の約70%を占めています。1、2年のみで「Fスクエアで後期も、講義を履修したいと思いますか?」という問いに対し、「とてもそう思う」「まあまあそう思う」と答えた学生は、66%という結果になりました。後期だけでなく、来年度もFスクエアの講義を履修し、後輩たちにもFスクエアの存在を伝えてほしいと思います。

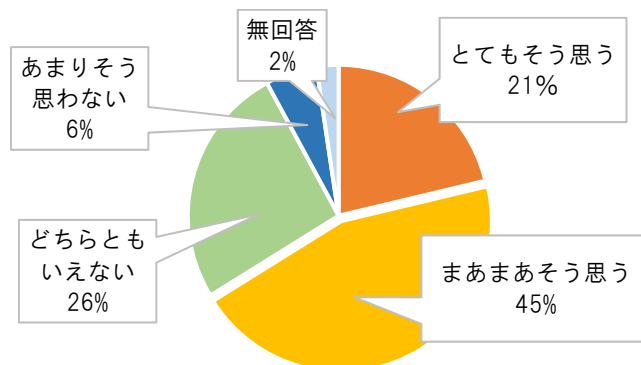
また、「Fスクエアで授業を受けて、良かったと思うことは何ですか?(複数選択回答可)」という問いに対して、「福井について詳しくなれるような授業が多い」「地元企業への興味がわき、就職活動を意識した」「他大学の先生の講義が受けられる」など、福井に興味を持ったことに関する回答が多く出ました。Fスクエアで講義を受けている学生の中には県外出身者も数多くおり(今回の調査では、85名(47%)が県外出身者および留学生)、福井の良さを県外の人が理解する良い機会となったのではないのでしょうか。

県内出身者だけではなく、県外出身者にも、福井の良さをどんどん知ってもらい、地元定着に繋がることを期待します。

また、「ふくい地域創生士」への興味に対する質問について、「興味がある」と答えた学生は75名と、全体の約40%という結果となり、メリットや制度自体の存在をさらに周知していくことの必要性を痛感しました。「ふくい地域創生士」の認定が就活へのインセンティブになるよう、そして、「ぜひ福井で働きたい!」と思ってもらえ、そのことが、地域活性化の一助となるよう努力したいと思います。

学生の声

Q. Fスクエアで後期も、講義を履修しようと思いますか?



※COC+開講科目(平成29年度前期@Fスクエア)でのアンケートの内、1、2年生127名分抜粋

学生必読

シリーズ「ふくい地域創生士」

「ふくい地域創生士」認定に向けて、準備を進めていますか?

来年の3月には初めての認定者が出る予定であり、認定された学生にとって就職活動時にインセンティブとなるよう、各大学は準備を整えています。

申請条件を満たしている学生の皆さんは、申請書をダウンロードし、準備を始めましょう(提出時期については各大学窓口にご相談ください)。



↑ 申請書 ↑

【ちょっこし耳よりなお話し】

ある学生からの質問です。

Q:「インターンシップとか大変だな～」

A:「社会に出るための準備として、インターンシップを経験することは大切だよ。就活期間が短くなっているから、インターンシップが重要になりつつあるんだ。まずは、各大学の就職担当窓口へ相談してみよう!」



舟木コーディネーター

申請条件を満たしていない、もしくはこれからチャレンジしようという学生の皆さんはぜひ10月から、「Fスクエアでの共同開講科目」を履修し、他大学の先生の講義や福井に関する講義を学んでみましょう。

開講科目の時間割やシラバスはHPで確認することができますし、来年の認定や就職活動にも間に合います。

特色 ふくいブランド 創出分野WG

山田錦による、「日本酒づくりプロジェクト」

7月28日福井大学内で「福井の大学発の日本酒造り、販売」に向けて、4つのチーム(「コメ作り」、「酒造り」、「営業(ブランド構築)」、「デザイン」)の学生が集まり、酒造りにご協力いただいている吉田酒造様の日本酒の試飲及び今後の商品の方向性(味、サイズ、名前など)を決めるワークショップを開催しました。

営業チームは今回、できあがる日本酒のイメージを考える人をあえて1人に絞ることとし、福井大学・岩井理事をその1人とししました。岩井理事からの商品に関する要望等を元に商品のプレゼンをしました。

最終的には、商品のコンセプトを「味がフルーティー(モデル:白龍 純米大吟醸)で若い人が日本酒を飲むきっかけとなる」「他大学の交流で紹介できる」とし、サイズは居酒屋などに卸すことを想定した720ml瓶と一升瓶の2パターンに決めました。商品名については、各チームの思いが込められている名前が紹介され、投票結果を元に、商標権等の条件を考慮しながら、吉田酒造様と相談の上、決定することとなりました。



平成29年度前期 COC+開講授業風景をご紹介します!(その2)

水曜5限「学問の入り口」 福井大学 末本 哲雄先生

この講義は学生が自ら「問い」を立て、自主的に学びを深めていくコツを身に付けることを目標としています。7月26日の講義では「ゆっくり、正確に着地するパラシュート」と題して、AOSSA5階から4階の休憩スペースに準備された的に向かってコーヒーフィルター・木綿糸・ワッシャーを使用して作ったパラシュートを飛ばしました。これは、ゆっくり、かつ、的の中心からどれだけ近くに落とせるかを競うものです。

本講義では、これまで2回の作成時間が設けられ、学生たちは、限られた時間の中で、課題に沿ったパラシュートを作るにはどうしたら良いか、試行錯誤しながらも真剣に作成していました。使うワッシャーやコーヒーフィルターの数を増やしてみたり、形を変えてみたりと、専門性を必要としない活動だからこそ、柔軟な発想を持ち、それを形にしていました。時には、お互いにアドバイスをし合う姿も見られ、第1回の講義と比べると、学生同士の距離が縮まったように感じられました。

そして迎えた本番、学生たちが作成したパラシュートは、個性に溢れていました。また、実際に的からの距離や落ちるスピードを学生たちが計測し、時に協力しながら、各々が自分の役割を全うし、空調などの条件も気にしながら、より課題に沿った結果が出るようにするにはどうしたら良いか、「研究」に対する熱い姿勢が印象的でした。学生たちは、この講義・学習活動を通して研究の仕方を学び、科学を探究していくことへの一歩を踏み出していたように思います。

(取材日:平成29年7月26日)



ワーキンググループによる主なイベント開催案内(9月)

看護福祉 WG

9月30日 13:30から敦賀市立看護大学 大教室で、看護学生を対象としたシンポジウム「在宅療養を支える 多職種連携の現状と課題」を開催します。

地域の医療・福祉を支える様々な職種の方をシンポジストにお招きし、高齢者をとりまく医療・介護の現状と課題について講演、ディスカッションを行います。一般の方も予約不要でご入場いただけます。多くの方のご参加をお待ちしております。

※詳細は、後日ふくいCOC+ホームページに掲載予定です。



編集後記

福井在住歴がもうすぐ1年になる折笠です。あっという間だったというのが実感のため、まだまだ福井の魅力に気づけていないところが多いかもしれませんが、東京の知人に会う時には福井の魅力について猛烈にアピールをしています(笑)。

COC推進室での仕事を通じて、福井のいろいろなことを知ることができることが私にとっては毎日新鮮です。これから福井の魅力にたくさん気づいていければいいなと思います。(折笠)

〔発行者〕福井大学総合戦略部門COC推進室

〒910-8507 福井市文京3丁目9番1号 Tel: 0776-27-9945

E-mail: coc-p@ml.u-fukui.ac.jp

ホームページ: <http://www.allfukui-cocp.jp/>

